

イラストレーター

平尾香の

ぶらり探描記



夢、それとも現実？ 提灯での夜道散策で幻想的なひとときに包まれて。

そもそも「谷中妄想カフェ」というタイトルからして「????」。散歩好きが集まる街というのはよく知っているし、自分の足でも歩いたことがあるけれど、そういう夜道は経験がなかったっけ。この企画は、夜のお散歩ツアー。それも提灯を持ってそぞろ歩く、と何とも楽しそう。受付後に軽い自己紹介をして提灯に点灯。着物のナビゲーターのお兄さんに続いて、さあ出発です。なぜか、提灯を持つと、動きも声も、幾分か大人しくなる自分が…。

住宅街を抜けて、車が通れないような細い道を進みます。古い民家が並び、人は住んでる気配なのに、とても静かな裏路地。夜風にあたる猫にも会えました。さらに暗く細くなる路地。片側はお寺の壁。道の真ん中には大きな木。井戸場で水に触れたあたりから、どこかの時代を歩いているのやら「????」。妄想がふつと湧いてきたようです。花火を楽しむときの若者に会ったかと思えば、羽化したばかりの蝉に提灯の明かりを近づけて、そっと見守って

みる。おけいこ横町といわれる通りでは玄関先の緑も美しく、浮き草の浮かんだ桶には、すーっとメダカの線。住人たちの街への愛着こそが、この雰囲気を保っているのでしょう。格子窓から漏れるほんのりした明かりに、丸い街灯。そして道の角で出会う提灯踊り(1?)の灯り。なんだか現実から遠い世界へと迷い込んだ気分。ろうそくの火をみんなで消して、夢つつのひとときを終わらせるのが惜しくなる。そんな夏の妄想時間でありました。

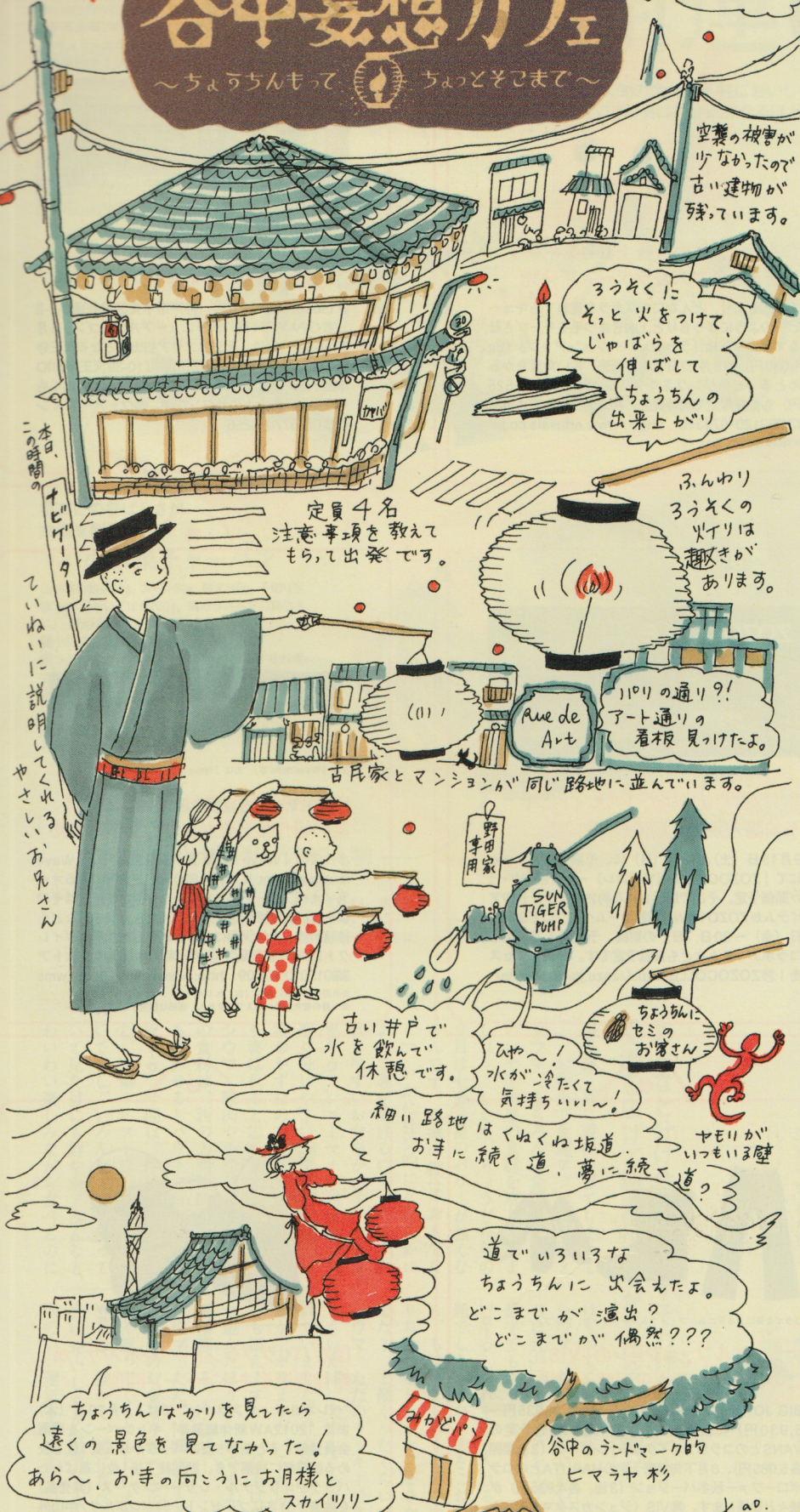
谷中妄想カフェ

都歴史文化財団などが主催し、共催の一般社団法人「谷中のおかって」が案内を務める谷中界隈の提灯散策ツアー。昨年開催されており、2ヶ月(計8回)の開催で500人超の参加者を数えた、知る人ぞ知る夏限定の人気イベント。今年は9月8日(土)まで。参加方法:専用予約フォームまたはメールにて事前予約が必要(ただし、定員に空きがある場合、受付窓口(カヤバ珈琲ANNEX内)での当日申込み可) 開催時刻:毎週金土曜の19:00~21:30(30分ごとに各日6回。雨天決行。荒天の場合は中止) 定員:4名 料金¥1200(新人ナビゲーターによるレイトツアーの場合は¥1000) 所要:約60分 最新情報・予約はHPで。http://okatte.info/guruyami/

谷中のおかって × 東京アートポイント計画

谷中妄想カフェ

～ちやうちんもって、ちよとそひまで～



空襲の被害が少なかつたので古い建物が残っています。

ろうそくにそと火をつけて、じゃばらを伸ばしてちやうちんの出果上がり

ふんわりろうそくの灯りは趣があります。

1101の通り?! アート通りの看板見つけたよ。

定員4名 注意事項を教えてください。出発です。

古民家とマンションが同じ路地に並んでいます。

野田家専用 SUN TIGER PUMP

古い井戸で水を飲んで休憩です。

ひや〜! 水が冷たくて気持ちいい!

ちやうちんにセミのお家さん

ヤヒカがいつも壁をよちよちと歩く道。夢に続く道。

道でいっしょなちやうちんに出会えたよ。どこまでが道出? どこまでが偶然???

ちやうちんはかりを見たら遠くの景色を見てなからた! あら〜、お寺の向こうにお月様とスカイツリー

谷中のランドマーク的 ヒマラヤ杉

ひらお・かおり 72年生まれ。旅や自然にインスピレーションを受けた作風は、温かさとスピリチュアリティにあふれる。ユニークな目線で見つづれるエッセイも人気。著書に『ソバのみ散歩』(柘出版社)など。「大人のラブレレ・エレガントセックス」という書籍の装画(挿画)を手がけ、著者の萩原おかるさんとトークショーに参加。いつになっても女子力を磨くって大事ですね!。タイトルは、「探して、描いて、記す」の意味です!